

電子カルテ被害対策提案

バックアップ商品の販売強化

エヌ・エス・エム

医療ソリューション事業などを手掛けるエヌ・エス・エム（略称「NSM」、本社大垣市今宿6の52の18、青山尚憲社長、電話05584・77・3121）は、電子カルテのデータを保存するバックアップシステムの販売を強化している。近年増加する医療機関のランサムウェア（身代金要求型ウイルス）被害の対策として提案する。中・大規模の医療機関を中心に、向こう3年で30施設へ導入を目指す。

（岐阜・武居皇弥）

3年で30施設導入目指す



青山尚憲社長

ータを閲覧することができ、診療を継続することができる。

同商品は10年ほど前に、災害時の診療継続を目的に

浜松医科大学と共同で開発

した。近年、ランサムウェア被害は増加傾向にあり、

全国で月に数件ほど発生しているという。こうした状

況を改善するため、バックアップデータを7日間単位

で分けて保存するなどのラ

ンサムウェア対策に特化した機能を追加して提案を強

化している。

導入にかかる費用は中・

大規模医療機関向けで50

0万円から。閲覧する端末

や患者数などによつて価

格は異なる。今後、小規模

のクリニック向けにも対応

予定で、価格は10分の1程

度に抑えて提供する方針

だ。

青山社長は「医療機関が

ランサムウェア被害にあつ

た場合、患者の情報などが

閲覧できず、診療を続ける

ことができなくなる。対策

を検討する際は、相談いただきたい」と話している。

同社は1996年の創業。紙のカルテを画像や文字データとして電子化するサービスなどを手掛けてい

る。

販売を強化している電子カルテバックアップシステム「カルテキューブ」は、ランサムウェアなどのウイルス感染や停電、自然災害時の診療継続をサポートする商品。電子カルテなどのデータを画像データ（PDFファイル）でオフライン上にバックアップするため、非常時にも端末からデ

